



海旅一座

～海から賜ったもの～



海旅一座旗揚げ巡業 佐世保 講話会

～海から賜ったもの～

■二〇一四年 新春海旅芸人巡業

長崎～福岡～島根～山口

■話士

洲澤育範 座長(皮舟大工)

「時を行く舟」

高沢進吾 (エスキモー 猟師見習い)

「海を喰らう」

鈴木克章 (シーカヤック海洋冒険家)

「海気の向こう側」

石川仁 (葦船海洋冒険家)

「草の船で海を舞う」

■日時 二〇一四年二月二日(日)

開場 午後二時半 開演 三時～五時

懇親会 午後五時半から八時 終宴厳守

■参加費

○講話会 二千円 飲み物付き

小学生以下は無料

○懇親会 二千円 食事代込み ◎要予約

(飲み物は持ち込みでよろしくお願ひします)

■場所 「アートギャラリー海からの風」

住所 長崎県佐世保市船越七八五―三

■アクセス

アクセス 西海パールシーリゾートから

展海峰・白浜海水浴場方面へ十分 駐車場有り

■担当・問合せ申込先

衣川 090-7535-0769

■共催 ナチュラルフィールド

■後援 トモハウス

■協力 Tsukimi-Coffee



■講演内容

○洲澤育範(皮舟大工)

「時を行く舟」

海から生まれた命は海へ還りたい、海を旅したい。われわれの血の奥底に眠る海洋は乳動物の記憶を呼び覚ます道具、それが革舟・カヤック、それが皮舟・バークカヌー。

<http://elcoyote1990.com/>

○高沢進吾(エスキモー猟師見習い)

「海を喰ふ」

アラスカ北極圏イヌピアック・エスキモーの町「ポイントホープ」に通い始めて二十余年。クジラ猟に参加すること十数年。時代とともに変化し続ける文化と、今に続く伝統を吸収したいと今も通い続けている。

<http://homepage1.nifty.com/arctic/>

○鈴木克章(シーカヤック海洋冒険家)

「海気の向こう側」

手漕ぎ舟日本一周の海旅のお話。一人ぼっちで海を漕ぎ続けた二十五ヶ月間。左足はどこまでも連続した野生へ。右足は現代日本社会へ。軸なる私はその様な環境の中で、何を思い何を感じたのか。そして何を伝えたいのか。

<http://hirumanonagar eboshi.hamazo.tv/>

○石川仁(葦船海洋冒険家)

「草の船で海を舞う」

人類が作り出した最初の乗り物とされる葦船(あしぶね)で海を渡る。まるでタイムマシンのように数千年前まで感覚が戻されていく海旅。そこにはむき出しの自然と戦い、そして抱き合うドラマがあった。

<http://kamuna.net>

